

令和4年度地域部活動推進事業

I 休日の部活動の段階的な地域移行に関する実践研究	滑川市教育委員会
---------------------------	----------

●現状・課題

滑川市内2つの中学校に全28の運動部が設置されており、15部でスポーツエキスパートや部活動指導員が指導に携わっており、全国大会やブロック大会等に出場するなど成果を出してきた。一方で、年々生徒数の減少や在籍生徒の市内外のクラブチーム等への加入により、各部における部員数が減少しており、部によっては、単独で大会に出場することが難しい状況にある。また、生徒数減少に伴う教員数の削減により、顧問の配置も難しい状況になっている。

市内には総合型スポーツクラブが1つあり、幅広い年齢層を対象にした教室等を開設している。しかし、年々加入者の減少が続いており、各教室の指導者の確保についても年々難しくなっている。市内各競技団体等においては、スポーツ少年団等の既存のチームの指導のため、部活動の地域移行に伴う新たな体制づくりや指導者の確保が難しい状況である。

以上のこと等を踏まえ、子どもたちが自主的・自発的に継続してスポーツに親しむことができる環境・機会の確保・充実のため、地域で支え、育てる滑川市型の地域部活動のあり方を検討するとともに、教員の働き方改革を踏まえた部活動における指導負担等の軽減を図ることを目指すこととした。

●実践研究校・競技

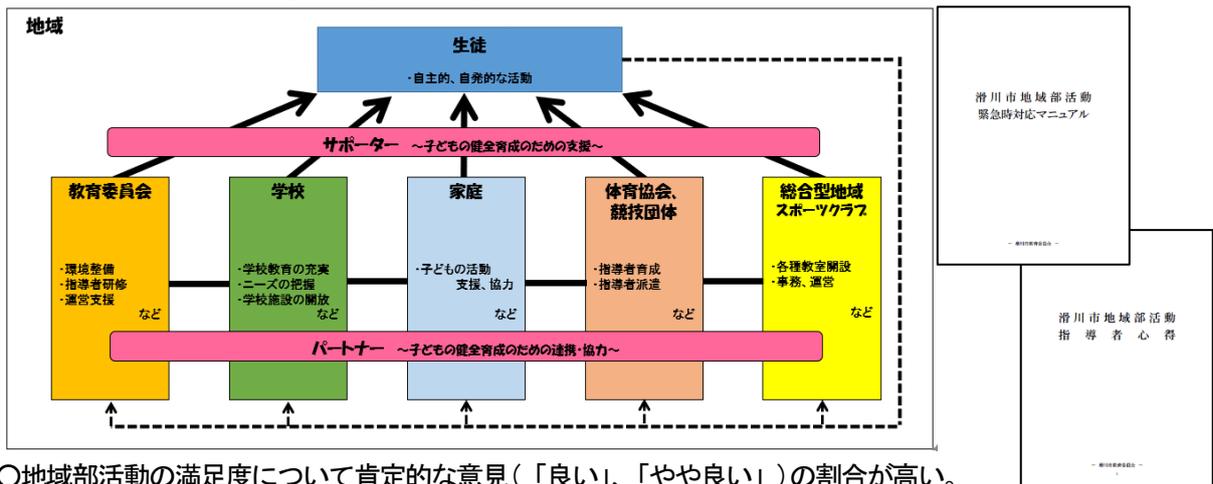
滑川中学校 バドミントン部 参加生徒数 48名 (男18・女30) (90.6% : 48/53名)

●実践内容

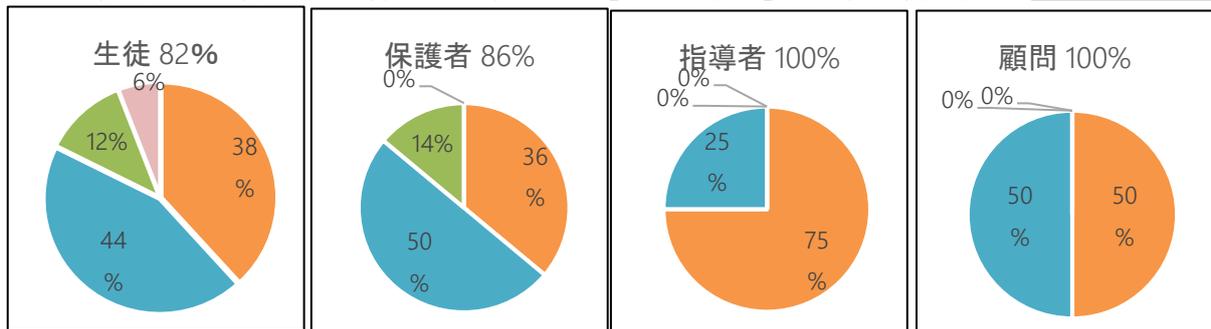
- あり方検討会を設置し、実践を通しての成果と課題の協議、次年度の方向性の検討。
- 市バドミントン協会の指導者(6名)による休日の部活動指導の実践。
- 教員の超過勤務時間の縮減検証。
- ニーズ、実態の把握。
 - ・児童・生徒、保護者、教員、指導者へのアンケート調査。
 - ・競技団体とのヒアリング。

●参加者の声・成果

○グランドデザイン、指導者心得、緊急時対応マニュアルの作成。



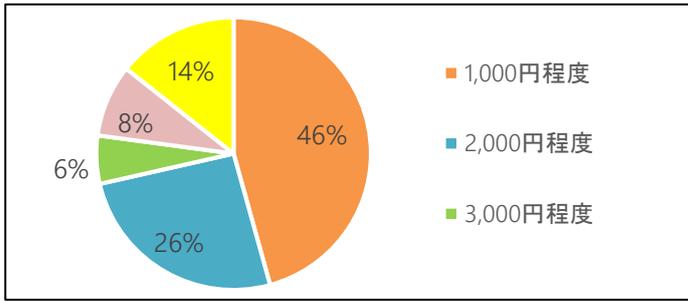
○地域部活動の満足度について肯定的な意見(「良い」、「やや良い」)の割合が高い。



■ 良い ■ やや良い ■ あまり良くない ■良くない

○地域部活動でのよかった点、成長できた点があったと答えた生徒の割合が高い。(91%)

○地域部活動の継続的な活動のための費用負担への理解の促進。



※「その他」、「協力できない」の理由

- ・ 500円/月=半年3,000円
- ・ 部によって必要経費が異なるため、説明をしてもらえばよい。
- ・ 他の部より先行して払うのはおかしい。



○担当顧問の休日の勤務時間の縮減。

4~7月: 平均16.8時間/月 ⇒ 8~1月: 0時間 (中体連主催大会を除く)

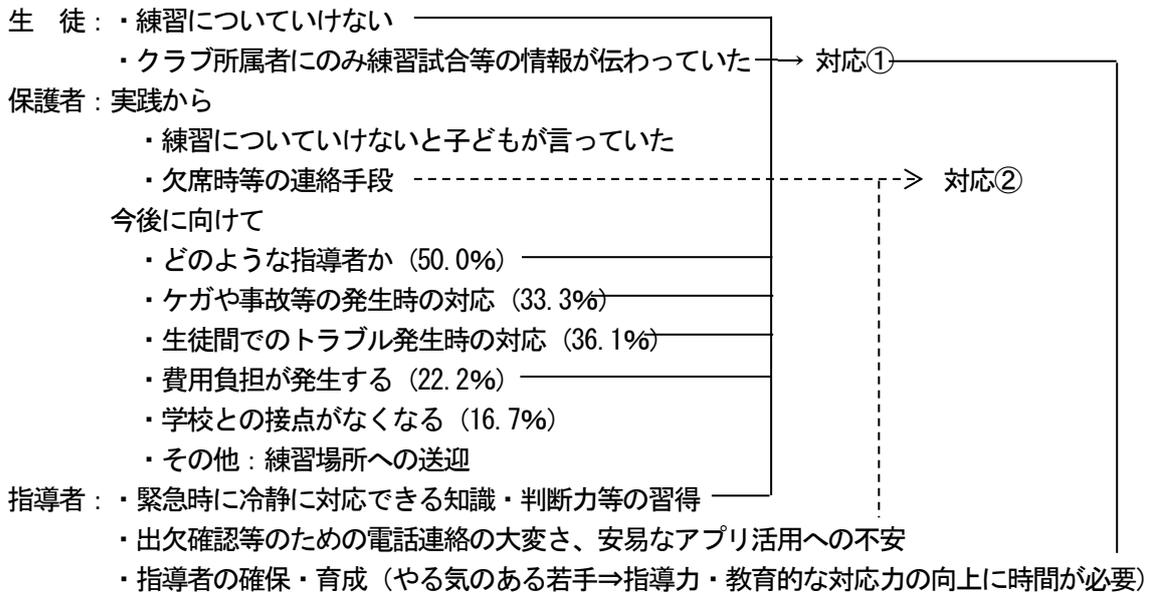
※その他の教員: 4~7月: 平均23.0時間/月 ⇒ 8~1月: 15.9時間

○地域で子どもたちのスポーツ環境整備、指導を行う意識の向上。

- ・ 各競技団体との連携強化: 実態に応じた段階的な移行への共通理解
- ・ 富山医療福祉専門学校: 学生の指導希望者の募集

●課題

○地域部活動について否定的な意見や不安な点、改善点への対応



○受け皿となる団体・体制の整備・充実

- ・ 地域部活動の指導をし得る指導者の確保が難しい。
 - ・ 受け皿となるクラブ等がない、設立までの時間が足りない。
- 対応③

○子どもたちの主体的な活動参加

「地域部活動_よくない」と答えた生徒

= 「楽しく取り組めない」 × 「親に行かされた」 (100%) → 対応④

●課題解決に向けて

○地域部活動について否定的な意見や不安な点、改善点への対応

- 対応①: 指導者研修会の実施・充実
- 対応②: 担当顧問との連携強化、情報モラル教育・教室の実施、通信機能等の制限が可能なアプリの活用
- 対応③: クラブ等の設立・指導者確保のための補助金等の支援のあり方を検討
 地元の専門学校等との連携強化 (滑川市型指導者バンクの設置等)
- 対応④: 説明会等の実施
 部活動は任意での参加であることの周知を図る
 従来の部活動に対する意識からの脱却を図る (ex. 部活動は入るべき。進学に優位になるはず。)

●今後の課題と対応

【関係者との連絡調整・連携体制の構築方策】

- ・定期的に協議会を開催し、先行して取り組んでいる団体の取組の成果と課題を整理したり、実情等を共有したりすることで、市内各競技団体等の受け皿となり得る団体や学校が方向性を共有して移行を進める体制を構築する。

【受け皿団体の確保方策】

- ・市内競技団体を統括する市体育協会との連携強化を図り、運営団体の移行に向けた協議、検討を行う。
- ・総合型スポーツクラブに既存部活動以外のスポーツも含めたニーズに応じた多様な教室の開設に向けた協議、検討を行う。

【指導者の確保方策】

- ・地元の専門学校との連携を強化し、学生指導者の募集を継続し指導者の掘り起こしを行う。また、地元の企業との連携も図り、指導者の確保に努める。
- ・市独自の指導者バンクを設置し、地域内の指導者の確保状況を把握するとともに、市内各競技団体等と情報を共有して、移行後の指導体制の構築を図る。

【費用負担の軽減方策】

- ・部活動の移行先団体の認定制度を設け、市内中学校の部活動を対象とした市内体育・文化施設の無料での利用を継続して行えるようにする。